



活用が進む生成AI

ではないように
に思います。

先週、旭川では本格的な積雪となり、自動車の運転には一段と注意を要する季節が到来しました。歩行者の立場でも、とりわけ雪道における自動車の挙動は気になりま

す。そういえば、筆者が小学生の頃、校舎に「車社会／歩くあなたも／そのひとりと」という交通標語が掲示されていました。自分

は運転していません。AIですが、ビジネスの現場ではどの程度活用されているのでしょうか。企業等における活用事例が

しばしば報道されますが、全体像の把握は簡単

ではありません。日本銀行では金融機関における生成AIの利

用動向についてアンケート調査を実施し、レポートとして先月、公表しました。大手行や地域銀行、

信金といった金融業界を対象とする調査ではあり

ますが、利用状況や導入目的、さらにはリスク管理など、具体的な内容が

含まれていますので、その一部をご紹介します。思い

ます。金融機関における生成AIの利用状況で

す。調査対象155先のうち、現状、約3割の先が

既に利用しています。試行中の先も約3割あり、

両者を合わせると約6割の先が何らかのかたちで

生成AIの利用を進めて

います。さらに、将来的な

試行・利用を検討してい

る先を含めると、約8割

の先が活用を進めようと

しており、生成AIの利



【足立祐一(あだちゆういち)】一九七三年、大分県出身。九州大学経済学部卒。金融市場局企画

役、国際局企画役、ドイツ・フランクフルト事務所長、調査統計局地域経済調査課長を経て、二〇二三年、旭川事務所長に就任。

速に進むなか、リスクの変化に応じて、社内

の先が「改善の余地が

ある」または「検討中」と

回答しています。生成AI